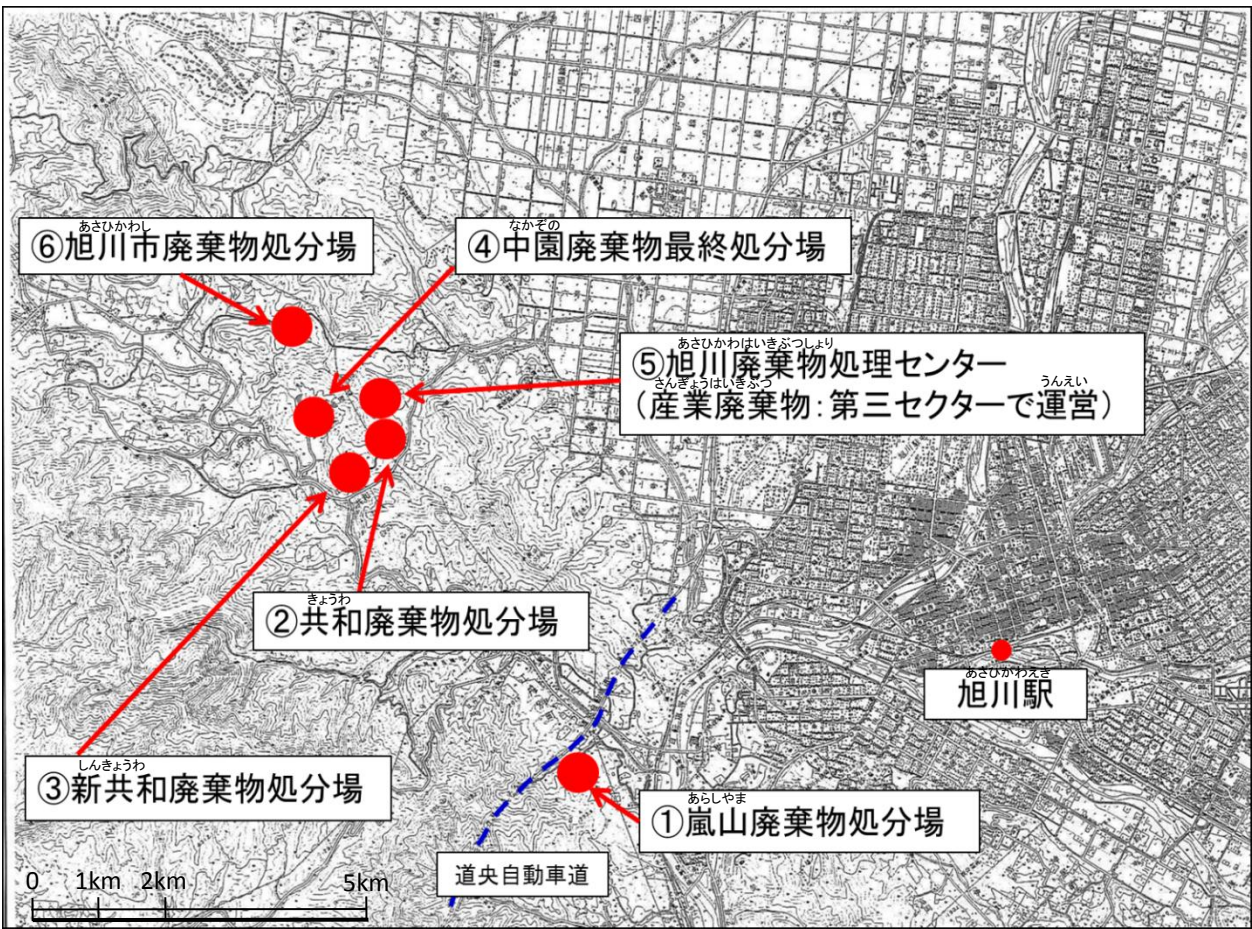


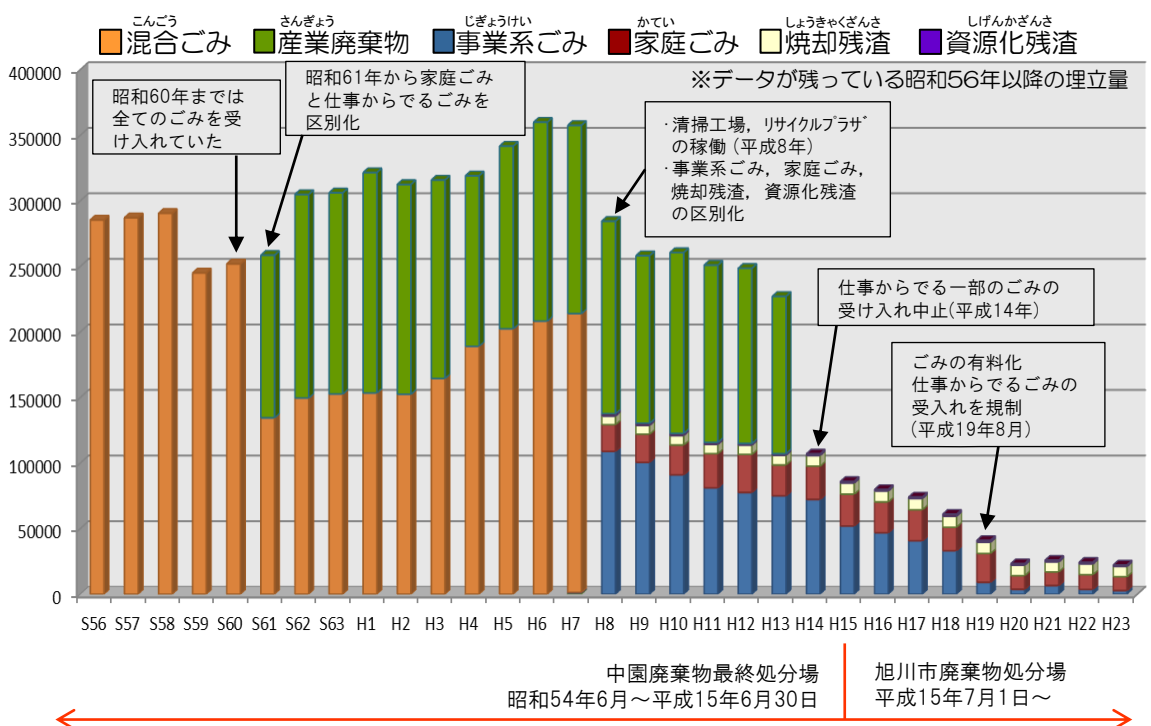
1. 旭川市のごみ埋立処分場の歴史

なまえ 名前	ごみを埋めた 期間	ごみを埋めた ひろ 広さ/量	う 埋めたごみ
あらしやま 嵐山 廃棄物処分場	しやうわ 昭和45年8月 ～昭和47年7月	ヘクタール 2.1 ha リットルメートル 25万 m ³	すべ 全てのごみ
きやうわ 共和 廃棄物処分場	昭和47年7月 ～昭和51年5月	8.2 ha 83万 m ³	全てのごみ
しんきやうわ 新共和 廃棄物処分場	昭和51年6月 ～昭和54年8月	8.2 ha 77万 m ³	全てのごみ
なかその 中園 廃棄物 最終処分場	昭和54年6月 ～平成15年6月	49.8 ha 660万 m ³	・家庭から 出るごみ ・仕事から 出るごみ
あさひかわはいきぶつ 旭川 廃棄物 処理センター (民間の処分場)	平成14年4月～	<安定型> 2.5ha,16万m ³ <管理型> 3.1ha,35万m ³	仕事から出 るごみ
あさひかわし 旭川市 廃棄物処分場	平成15年7月～	13.2 ha 184万 m ³	・家庭から 出るごみ ・仕事から 出るごみの 一部



※40年以上のあいだ、江丹別地域にごみ埋立処分場がつけられています。

旭川市のごみ埋立量



- ～ごみを減らすために行ったこと～
- 平成 8年：5分別（燃やせるごみ、燃やせないごみ、粗大ごみ、缶・びん、家庭金物、乾電池）
リサイクルプラザ及び近文清掃工場の使用開始
 - 平成13年：6分別（ペットボトルの追加）
 - 平成14年：旭川廃棄物処理センターの開設により仕事から出る一部のごみの受け入れを中止
 - 平成14年：7分別（蛍光灯の追加）
 - 平成15年：旭川市廃棄物処分場の使用開始
 - 平成16年：8分別（段ボールの追加）
 - 平成18年：10分別（プラスチック製容器包装、紙製容器包装の追加）
 - 平成19年：13分別（切った枝、布類、使い終わった食用油の追加）
家庭ごみの有料化、仕事から出るごみの受け入れを規制

2. 当時のようす（近くに住んでいる人の声）

（嵐山処分場，新共和処分場）

昔は、ごみをトラックの荷台におおいをかけて運んでいたのて、落ちたごみが路上にたくさん散らばっていた。
生ごみにはハエやカラスが集まりひどい状態であった。市に何とかしてほしいと言っても、すぐに聞いてくれなかった。

市の対応

共和処分場の埋め立て開始に合わせて道路の掃除をする「路上じん芥収集員」を配置しました。

（中園廃棄物最終処分場）

収集車（ごみを集める車）から煙を出しながら処分場に入ることたびたびあった。使い捨てライターが振動で火が出ると言われていた。また、夜には自然に火が出て消防車のサイレンで驚かされたことが何回もあった。
色々な物が埋め立てられ、汚れた水が流されている江丹別川の川魚の背骨が曲がっている写真が新聞に載ったこともあった。その後市の上水道が入り、飲み水は安全になったが、お米を作っている農家は風評被害にあった。同じコメでも処分場の近くでとれたコメの価格は低かった。
色々な物が無造作に捨てられていた。家庭の生ごみ、電化製品、スーパーから大量の野菜くず、消費期限が切れた食品など、会社からはオイル缶、金属くず、古タイヤ、病院からは注射器や血の付いたガーゼ、それに廃アスベスト、焼却灰など、今から思えばリサイクルしていれば8割は減ったのではないかと。また、見学する時には写真撮影は禁止だった。

25年ほど前、ごみを収集する仕事をしていた時に中園処分場へ出入りしていたが、他の職員が「こら辺の米や野菜は食べられないな」と言った。だれもが、処分場の地下水と空気が江丹別を汚していると感じていたのでないか。休憩場所の井戸水で入れたお茶は、紫色で苦く、とても飲めたものではなかった。
家庭ごみ、仕事から出たごみ、農薬、病院からの注射針など、あらゆるものがごちゃごちゃに埋められ、トビ、カラス、キツネなどが群がっていた。業者に頼んで処分場の検査をしたとき、硫化水素（有毒ガス）の濃度がすぐに死んでしまうほど高くおどろいたことは忘れられない。処分場の中は変なおいやほこりがあり、夏には目がチカチカした。中園処分場の処理した水を持ち帰り、オタマジャクシを入れたら、しばらくは普通にしていたが、やがてグルグル回り始めて次の日には死んでしまった。

2. 当時のようす (つづき)

ハエの発生 (平成5年頃)

生ごみも受け入れており、近くの住宅ではハエが大量に発生していました。



カラスと農作物被害 (平成6年頃)

生ごみをエサとして、カラスが大量に集まり近くの住宅にいろいろな被害をもたらしました。



30年前に家を建てたが、中園処分場の開設時期と重なりとにかくひどい目にあった。家が処分場入口手前にあるため、ごみ運搬車に付いてきたハエが車から離れて、自宅に集まってきた。ハエが窓などにびっしりと付き、殺虫剤を使うとその汚れが窓や壁について汚くなった。カラスの数もすごく多く、追い払うための爆音機の大きな音で眠れないことが多かった。ハエやカラスが処分場からきたとはいえないという職員もおり、精神的につらかった。

中園は昔から山の幸、自然に囲まれていた。なぜここに埋立地をつくるのかと思った。

酪農にあこがれて江丹別にやってきたが、そこに埋立地ができた。生ごみのにおい、ハエの大量発生、数え切れないほどのカラスで、ガスの大量発生、発火火災が頻ぱんにあり、処分場はくさい、きたない、こわい。江丹別に住む人の数が急に減ってしまった。

牧草地へ大量のカラスが飛んできて放牧中の牛の背中をつつく、カラスのふんによって飲み水がきたなくなる。牛がウイルスに感染し血が混ざったふんをし、乳量が減少する。芽が出たばかりのとうきびが被害に遭い、牛のえさを雨から守っているフィルムに穴を開けられてえさが腐った。カラス駆除のため大きな音の出る機械を使っても効果はその時だけ。

ここで牛を飼い、生活していることを非難された。

30年前ころ、市街から江丹別に戻るとき生臭いにおいがして、気分が悪くなった。こんなに自然豊かな山の中で、どうしてこんなにおいがするのかと本当にかっかりしたものだ。

夕方になると、カラスの鳴き声があたりをこだまし、空がカラスで真っ黒になった。朝は早くから、畑のトマトをつつき、花が咲く前にクキを折り、物干しざおにドロつきの足でとまり、牛の飼料タンクから飼料をつついたり、子牛に近づいて驚かしたり、ごみステーションの生ごみをバラバラにまき散らしたりした。

カラスや臭いは、江丹別がそもそも持っていたものではない。

「江丹別って最終処分場のある、あのカラスのいっぱいいるところ」と旭川市民に思われていた。しかしその原因は、町から運ばれてきたごみである。原因は、市街地の家庭や事業所にある。旭川市は大多数の市民の方を向いて、江丹別の問題を先送りしてきたと思う。新しい処分場が建設されるとき、当時の市民広報(情報誌)に「建設に反対する江丹別地域住民へ、大多数の市民のためにどうぞご協力ください」というような記事が載っていた。これは逆ではないか。「こんなに迷惑のかかる処分場を造らなければならないのだから、分別をしっかりと江丹別の地域の方に迷惑がかからないように」と言うべきではないか。弱いものをさらに嫌な目にあわせると思った。

カラスに洗濯物などを汚されて、何度も洗い直した事がある。スイカも食べられてからは作った事はない。

埋立地火災 (平成12年)

煙と炎が立ち上がり、消火活動を行っているところです。ごみの中にガス缶やライター等の引火物、発火物があると火災になることもありました。



アスベスト(石綿)の埋立状況 (平成13年)

アスベストを袋に入れ二重に包んで埋め立てたが、かぶせる土が少なく、雪どけ時期には土から出てきていました。



中園処分場の土地は昔牧場として使用していたが、入牧者が減少して休牧していたところ、市のごみ捨て場として使用することになった。

平成元年から、ごみの仕事をするようになったが、ハエとカラスが大変な量だった。家庭ごみ、魚屋などの生ごみがくさかった。

仕事から出るごみや家をこわしたものをそのまま捨てていた。その中には4~5mの木材もあった。1年間に1~1.5m地面が下がっていた。ごみの埋立深さは35~36mあり、地面が下がると土砂をかけていた。

火災が起きたときは水をかけると余計に燃えた。火を消すには土をかぶせるのが一番効果的であった。

中園は病院から出た注射針やアスベストなど、あらゆるものが捨てられたひどい処分場だった。また、よく火災が発生し、朝の4時に処分場に行ったこともあった。すでに火は100メートルまで広がり、煙が立ち上り、こわい思いもした。私たちの環境保全運動の結果、監視機関が設置され、今はきれいな処分場になっている。

住民や息子から中園の前を通ったらくさいにおいがしてひどいという話を聞いたので、何度も処分場の職員に連れて行ってもらったが、その原因は調べてもわからなかった。木を植えても育たないと思う。

安全が確認できれば監視を続けながら、憩いの場(釣り堀、アスレチック、四季の花々、自然とふれあう場など)として活用してほしい。

埋立地火災

(平成12年) 埋立地から炎が広がっている様子

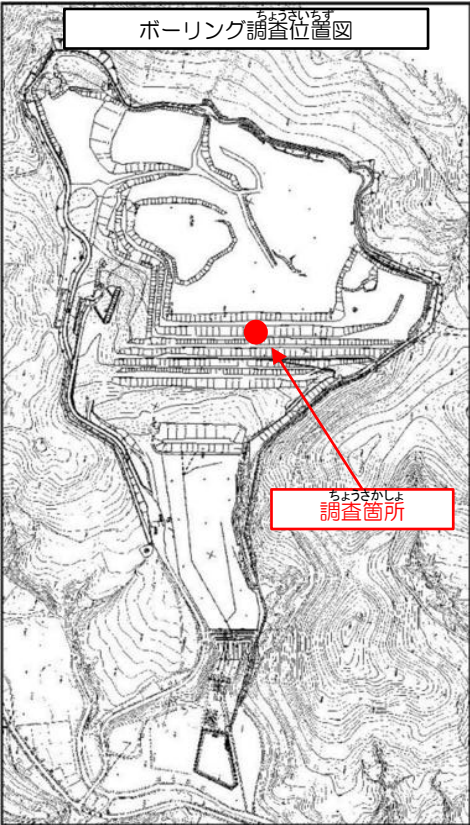


埋立状況

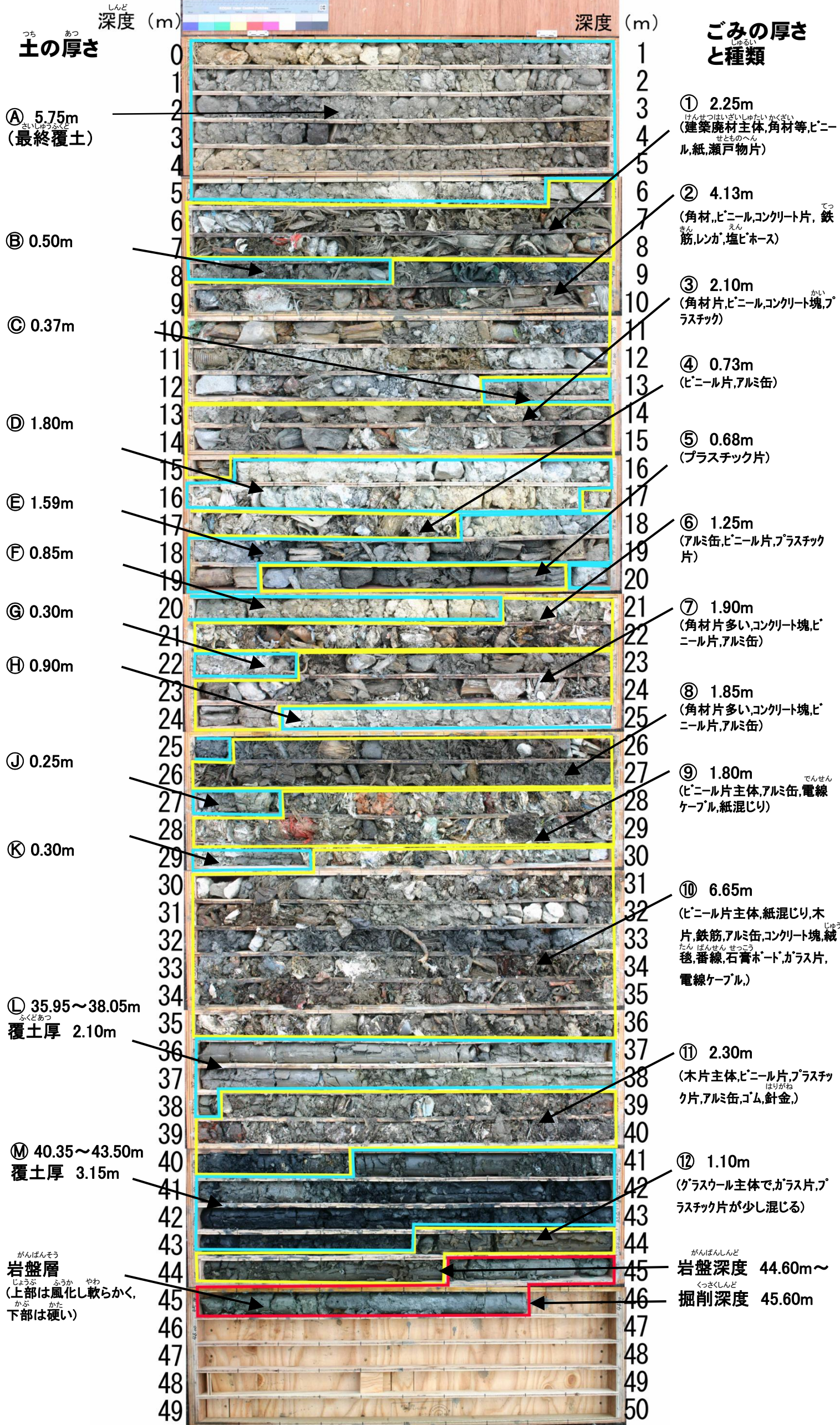
(平成10年頃) 覆土(ごみの上に土をかぶせること)がされず、ごみが露出している様子



3. 中園廃棄物最終処分場に埋め立てられた廃棄物



埋立地から掘り出したごみとかぶせた土 (平成21年8月, 深さ約46m)



埋立廃棄物の種類

- 一般廃棄物 (家庭などからでたごみ)
 - 燃やせるごみと燃やせないごみが混ざったごみ, タンスなどの大きなごみ, 清掃工場で燃やした後に残った灰など
- 産業廃棄物 (仕事から出たごみ)
 - 汚れた土や泥, 食品工場などから出る生ごみ, 木のくず, ガラスくず, コンクリートくず, 家をこわした時にでる木材などのごみ

廃棄物の埋立状況

- 資源になるものが埋め立てられている
 - 紙①
 - アルミ缶など
 - ④⑥⑦⑧⑨⑩⑪
- 埋め立てたごみと覆土がバラバラ

4. 中園廃棄物最終処分場の適正化工事

処分場の問題点 (平成15年時点)

- ①埋立地の表面や埋立地の外から雨水・地下水が流入している
- ②埋立地内にたまった汚れた水の排水が不十分
- ③埋立地の中にたまっているガスを抜く管の数が少ない

その結果

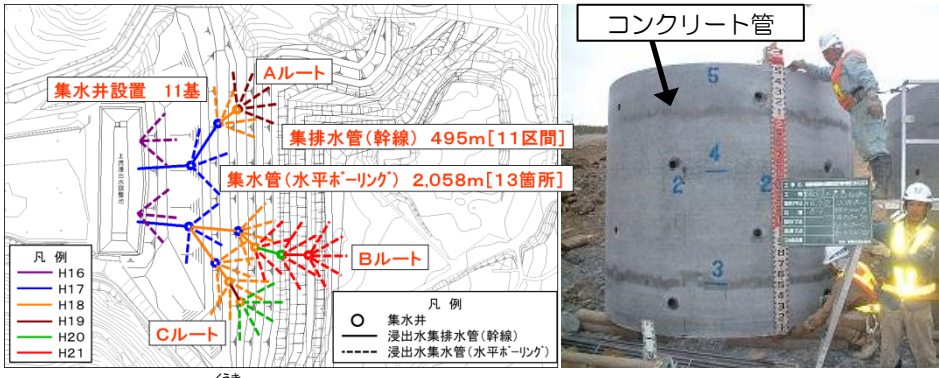
汚れた水が埋立地の中にたまり、汚れた水の量が多かった
埋立地の中に空気が入らないため内部のごみの分解が進まなかった

適正化工事の方法

○安定化 (ごみの分解) を早く進めるための工事

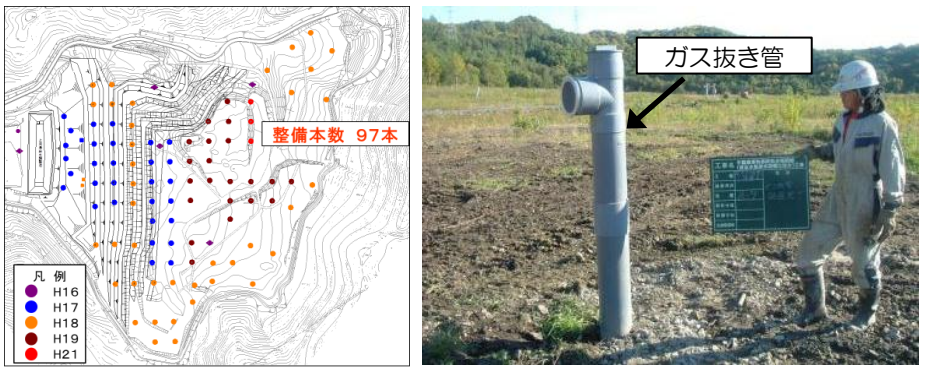
1) 汚れた水の排水

埋立地の中にたまっている汚れた水をまとめて排水する。
方法：直径2.5m、深さ15~42.5mの大きなコンクリート管を11基、管同士を結ぶ直径25cmの汚れた水を集める管と直径4cmの管を水平に設置 (浸出水集排水)



2) ガスを抜き、空気を送る

埋立地の中にたまったガスを抜き、内部に空気を送る。空気が入ることにより、ごみの分解が早くなる。
方法：直径20cmのガス抜き管を97本設置 (発生ガス対策)



○汚れた水の発生量を減らすための工事

1) 埋立地のまわりから入ってくる雨水の量を減らす

方法：外周の水が流れる水路を補修する (外周水路補修) 982m



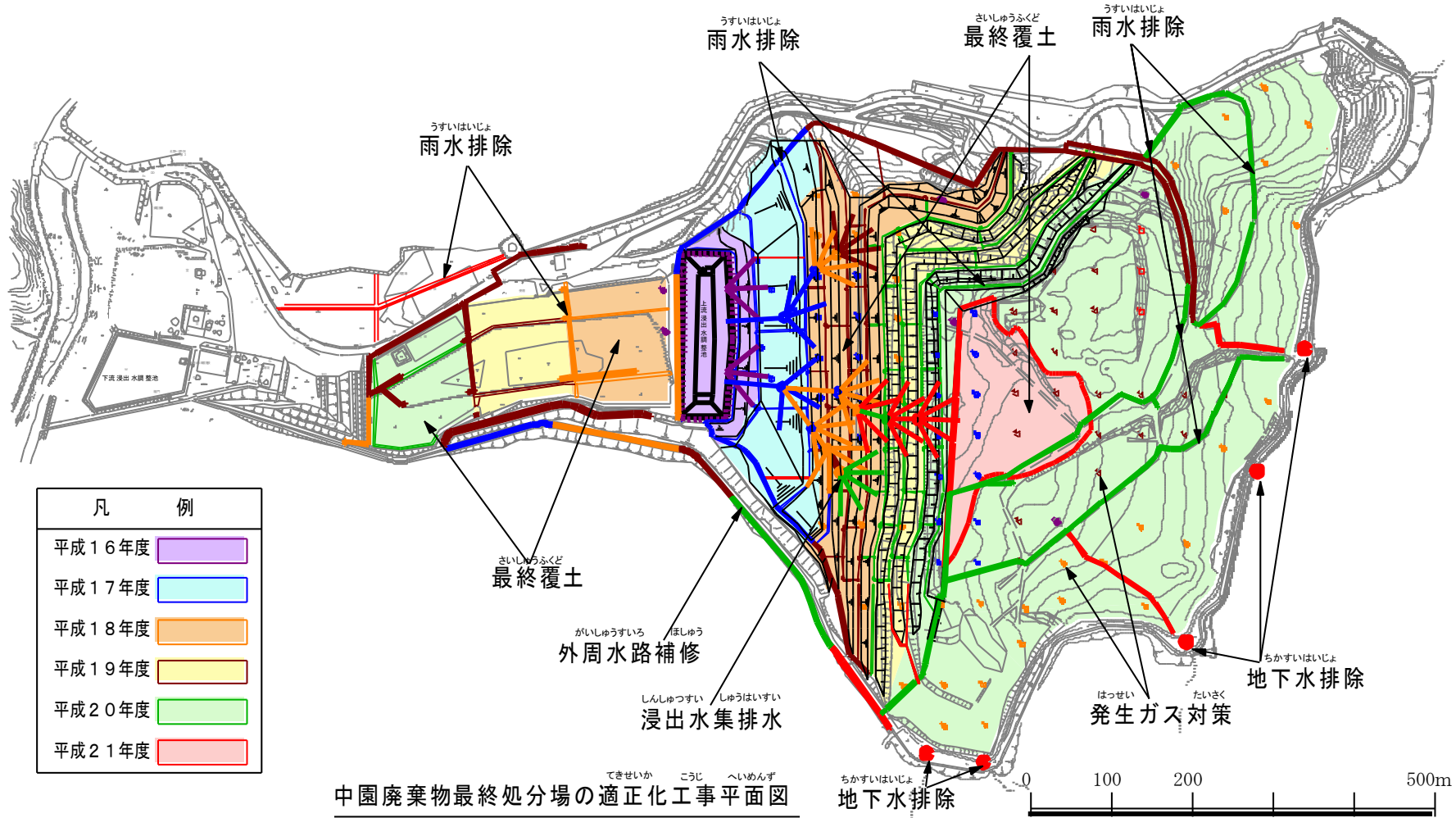
2) 埋立地の外から地下水が入ってくるのを防ぐ

方法：管を埋めて、埋立地に入ってくる地下水を集める (地下水排除) 集水管埋設 572m



3) 埋立地の表面からしみこむ雨水の量を減らす

方法：埋立地の表面の雨水を集める (雨水排除) 雨水排除 9,743m
埋立地の表面を土砂でおおって、雨水をしみこませない (最終覆土) 覆土量 665,600m³



処分場の状態を確認するための調査

埋立地に異常がなく、環境への影響がないことを定期的な検査によって確認する。

○水の状態

- ・浸出水：埋立地内のごみの分解がどのくらい進行しているか (雨などがごみの中を通過して出てきた水)
- ・処理水：水処理施設が正常に運転されているか (浸出水を処理してきれいにした水)
- ・地下水(地下を流れている水)：浸出水が漏れて地下水を汚染していないか
- ・河川水(川の水)：埋立地からの影響がないか

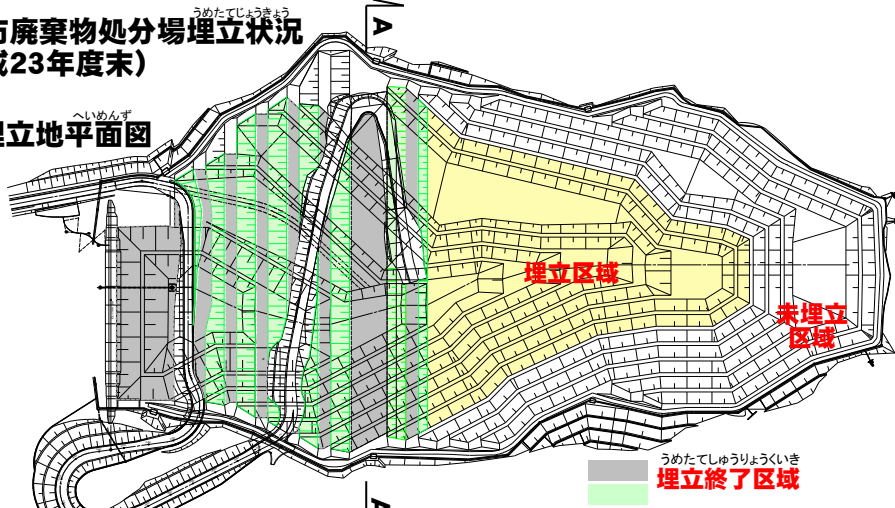
- 埋立地から発生するガス：ごみの分解の状況はどうか
- 埋立地の中の温度：ごみの分解は進んでいるか (分解が進むと温度は低くなる)

※埋立地から流れてきた水、埋立地から発生するガス、埋立地の中の温度などが国が決めた基準に合格すると、埋立地の管理を終了することができます。(処分場の廃止といえます)

5. 旭川市廃棄物処分場の状況

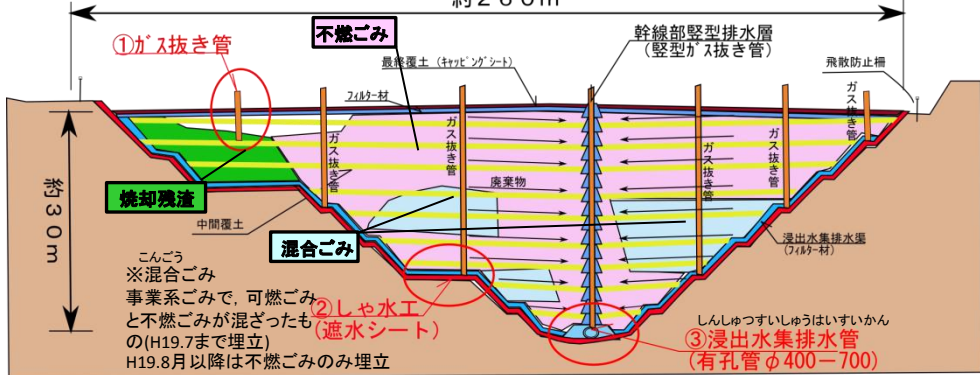
旭川市廃棄物処分場埋立状況 (平成23年度末)

埋立地平面図



埋立地断面図(A-A)

約260m



- ①ガス抜き管 → ごみの分解により発生するガスを出したり空気の通りを良くする管
- ②しゃ水工(遮水シート) → 埋立地にしみ込んだ汚れた水が漏れて地下水を汚すのを防ぐもの
- ③浸出水集排水管 → 汚れた水を集める管

分別ボックスの設置 (平成23年7月)

資源物や燃やせるごみを埋め立てしないよう、受付前に分別ボックスを置き、燃やせないごみだけを埋め立てする取り組みを始めました。



住民の声

市は住民に迷惑を掛けないと言いながら、どれだけ迷惑を掛けているか分かっていない。大切に育てた野菜が被害を受け、お金の補償だけではすまされない。なぜ、35万人のごみのために辛い悲しい思いをしなければならないのか、なぜ江丹別にばかり迷惑施設を押し付けるのか。市は真剣に考えるべきである。

処分場ができて9年になるが、いつもルールを守らない違反ごみがある。市は、ごみをしっかり分別するよう指導をするべきである。

今後の取り組み 分別ボックスを設置し燃やせるごみなどを受け入れない取り組みを行っていますが、それでもまだ、地域住民の方はカラスなどによる農作物の被害を受けています。今後も、正しいごみの受け入れを徹底するとともに、ごみの分別や量を減らすことに対する市民一人一人の気持ちをもっと高めるための啓発活動の推進など、処分場の周辺の環境を守る取り組みを続けていくことが必要です。

6. 処分場監視機関設置の経緯と活動

北海道公害審査会

→処分場建設の中止を求める公害調停 (平成12年)

旭川地方裁判所

→建設工事の禁止を求める申し立て (平成13年)

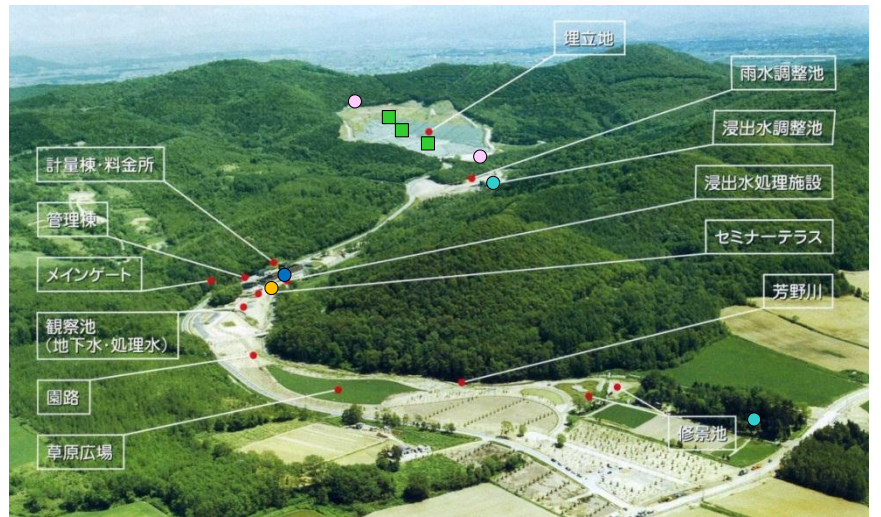
なぜ?

- ・江丹別地区に40年以上ごみを受け入れていることへの不満
- ・昔の処分場での良くない維持管理や周辺の環境を守る対策に不信感

解決

- ・大学の先生や地域の住民などが処分場について話合う監視機関を設置
- ・埋立が終わった処分場が早く自然に戻るよう閉鎖工事を実施

維持管理状況



周辺環境へ悪い影響を与えていないかを確認するため、定期的に調査を行っている

- 浸出水(雨などがごみの中を通って出てきた水) → 浸出水の状況の把握
- 処理水(浸出水を処理してきれいにした水) → 水処理施設が正常に運転されているか
- 地下水(地下を流れている水) → 浸出水が漏れていないか
- 河川水(川の水) → 埋立地からの影響がないか
- 発生ガス(埋立地の中のガス) → ごみの分解の状況はどうか

搬入されるごみの状況 (平成18年)

仕事から出る燃やせないごみ(コンビニなどから排出されるもの)の中に缶、ペットボトル、プラスチック製容器包装が混入しています。ごみを出す人に指導を行うとともに、コンビニを利用する人に分別を呼びかけることが大切です。



野菜の食害状況 (平成18年)

燃やせるごみが埋立地に入ってくると、カラスが集まってきてしまい、周辺の畑で被害が起きています。ごみの分別徹底を市民に呼びかけていく必要があります。



シートがやぶれる事故が2度も続き、その後のやぶれた場所が心配だ。雪の上にあったライターの写真を撮ろうとした時、煙が出て職員が慌てて雪をかけて消したが、あの時私が行かなければ火事になっていたと思う。後から市の担当者があやまりに来た。また、シートを直した部分がはがれているのではないかと心配だ。

江丹別はごみ収集車やトラックが通るのに道路の幅が狭く、自転車に乗っているときや歩いているときは危険を感じるので、改善して欲しい。

○中園廃棄物最終処分場監視委員会

- 学識経験者(大学の先生)3名、
- 事件申請人(処分場建設の中止を求めた人)3名
- 周辺地域住民(江丹別に住んでいる人)4名、
- 公募市民(監視委員に応募した旭川市民)4名

○旭川市廃棄物処分場環境対策協議会

- 学識経験者3名、
- 周辺地域住民4名、
- 公募市民4名

○監視委員会、協議会の検討内容

- ・中園廃棄物最終処分場における閉鎖工事内容
- ・中園及び旭川市廃棄物処分場の環境調査の方法と結果
- ・処分場関係予算、埋立状況視察、環境調査の立会

※こうした取り組みの中で、処分場の歴史を記録として残すためこのパネルを作成しました。